

# 戦後日本社会における男の友愛コードの変化

——『昭和残侠传』と『仁義なき戦い』を事例として——

京都産業大学 東 園子

## 1 目的

本報告は、やくざ映画『昭和残侠传』と『仁義なき戦い』を比較して、戦後日本社会において男同士の絆の表象がどのように変化してきたのかについて、一つの視座を得ることを試みるものである。

イブ・コゾフスキー・セジウィック（1985）が論じたように、ある社会における男同士の関係のあり方は、男女間の関係にも影響を及ぼし、その社会のジェンダー秩序を大きく左右する。その社会における男同士の関係性を理解するには、男同士の友情がどのようにコード化されているかを知ることが重要になるだろう。ニクラス・ルーマン（1982）は、人々が他者と親密な関係を築く際のモデルとなる親密性のコードは、親密性を描いた物語を通じて人々に伝達されるとした。戦後の日本社会における男同士の友情を描く物語ジャンルの一つとして、やくざ映画があげられる。1960年代に始まったやくざ映画は、任侠の世界を描いて男性から絶大な人気を得、1970年代には実在のやくざを題材にした「実録もの」が一世を風靡し、現在でもビデオ作品等として根強い支持がある。本研究は、やくざ映画の変化、特に、伊藤公雄（1993）が日本社会において「男らしさ」が変容した時期としてあげる、1970年代における任侠映画から実録やくざ映画への変化を分析することから、戦後日本社会における男の友愛コードの変化について考察する。

## 2 方法

上記のような研究を進めるための最初の糸口として、本報告では、やくざ映画の中から、高倉健主演『昭和残侠传』（1965）と菅原文太主演『仁義なき戦い』（1973）を比較分析する。両作品は任侠映画と実録やくざ映画を代表するシリーズの第一作目であり、第一作からの定型を引き継ぐ『昭和残侠传』シリーズの最終作が公開された直後に、『仁義なき戦い』がヒットして任侠映画から実録やくざ映画への流れを決定づけた点でも、象徴的な作品といえる。また、物語の開始時点の時代設定が、どちらも第二次世界大戦敗戦直後の昭和21年（1946年）ごろとされており、その点でも比較しやすい。本報告では、両作品での主人公を取り巻く男同士の絆の描かれ方を中心に、女性との関係の描かれ方や、主人公を始めとする男女の登場人物の人物像、男性性との関わりなどについて分析を行う。

## 3 結果・結論

分析の結果、両者では血を介した濃密な男同士の絆の描写が見られるが、男性登場人物たちの絆の基盤になっているものは異なっており、セジウィックのいう「ホモソーシャルの三角形」、つまり女性を媒介にした男同士の絆の要素が『仁義なき戦い』では希薄化している点も注目される。これらの相違は、作品世界における男性観・女性観と関わっていると考えられる。

## 文献

- 伊藤公雄、1993、「〈男らしさ〉と近・現代社会」『〈男らしさ〉のゆくえ』新曜社
- Luhmann, Niklas, 1982, *Liebe als Passion: Zur Codierung von Intimität*, Suhrkamp. (=2005、佐藤勉・村中知子訳『情熱としての愛——親密さのコード化』木鐸社)
- Sedgwick, Eve Kosofsky, 1985, *Between Men: English Literature and Male Homosocial Desire*, Columbia University Press. (=2001、上原早苗・亀澤美由紀訳『男同士の絆——イギリス文学とホモソーシャルな欲望』名古屋大学出版会)

※本研究は JSPS 科研費 JP 17K17858（若手研究（B）「やくざ映画の分析を通じた戦後日本社会における男性イメージの変化の考察」）の助成を受けたものである。